

## 藪の下で

### 1. シロハラ

冬鳥として10月には渡ってくるツグミの仲間です。頭部から背面が灰褐色で、腹部が白っぽいのでこの名がつけられています。雌雄が同色で、倉吉ではドロツグとよばれ、昔はよく知られた鳥でした。

体長は25cmほど、畑や河川敷など開けた草地に多いツグミとほぼ同じで、飛ぶと尾の両側の尾羽の白が目立ちます。シイの木の下など薄暗い林の地上で、落ち葉をかき分けながら餌を探しているところによく出会い、雪が林床にまで積もると開けた所へも出てきます。ツグミは群れとして出会うことの多い鳥ですが、シロハラはいつも単独行動をしています。



シロハラ

出会うと、ビジャツ ジャツジャツジャツと鳴いて藪の中に飛び込んで行きます。雪も溶けた4月には、北へ帰る体力をつけるために地面を掘り返しての餌探しが忙しく、警戒心が薄くなるようです。樹上でチャッチャツという地鳴きは聞くことができても、さえずりを聞くことはまずありません。

### 2. トウゲシバ

原始的なシダであるヒカゲノカズラの仲間ですが、常緑性で幅が広く縁に鋸歯(きょうし)のある葉から、種子植物の草本に間違われることもあります。叉状に枝分かれして高さは20cmくらいまで、雪で倒れると茎の途中から根や枝を出します。

林床のやや湿ったところに生育しますので、風通しの良い乾燥した峠には無く、峠に生える芝の意味の名前がそぐわないところもありますが、一面に生えるとシバという名前もうなずけます。

上部には薄黄色の孢子囊(ほうしのう)が、孢子葉の根元につくため茎に付いているようにみえます。孢子による繁殖よりも、茎の先端にできる葉が厚くなった芽(ムカゴという)が離れて落下したものから増える方が普通であり、集団を作ることが多いのです。葉の幅が地域による差が大きいの



トウゲシバの孢子囊



ヒカゲノカズラの孢子囊



トウゲシバの幼体

で、他地域のものと比較するのも面白いと思われます。

(倉吉博物館専門委員 國本洗紀 2014)